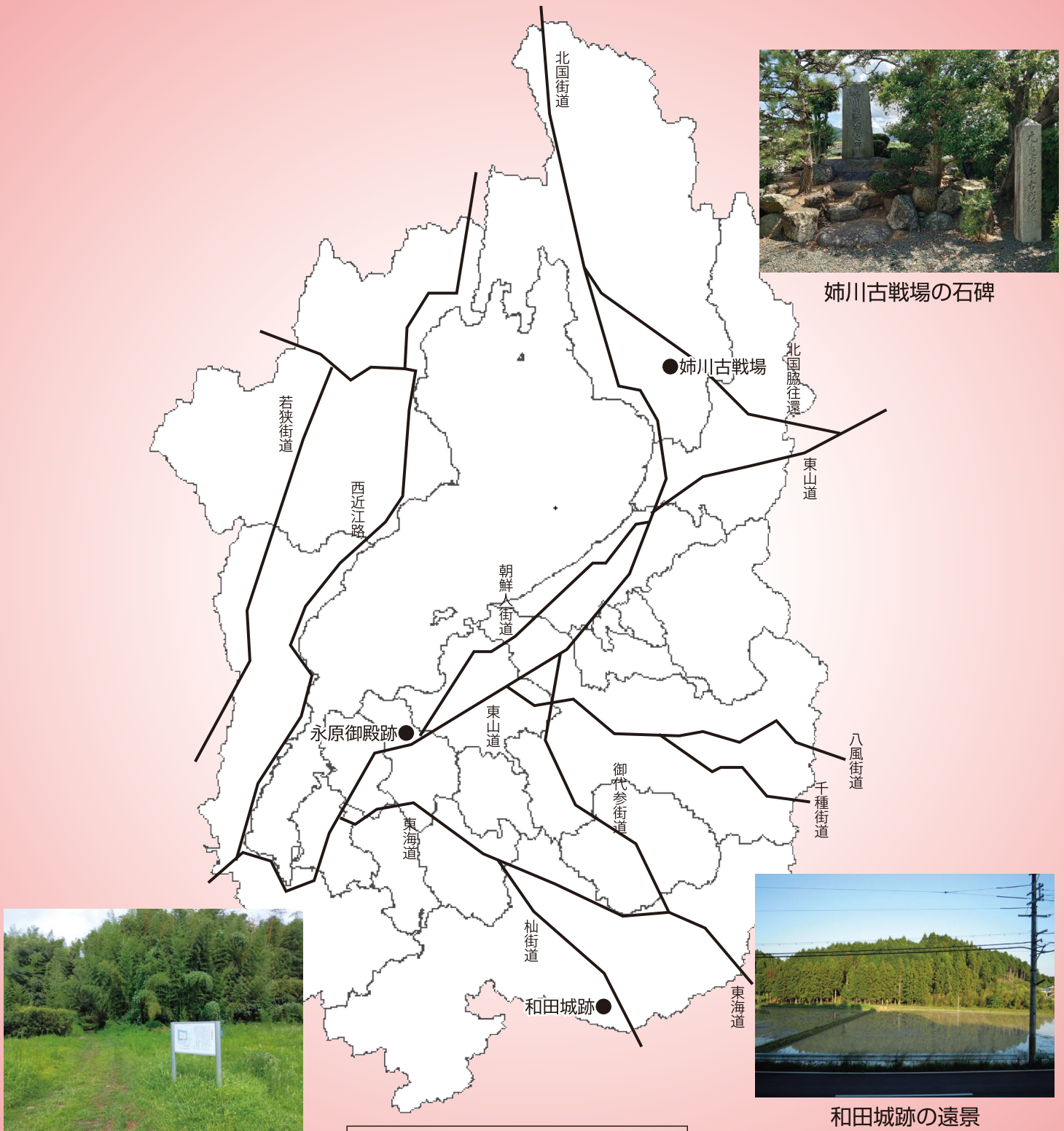


徳川家康と近江の城



姉川古戦場の石碑

永原御殿跡の遠景

徳川家康と近江の城 関連地図

和田城跡の遠景

発行：令和5年10月14日

編集：滋賀県文化スポーツ部文化財保護課

安土城・城郭調査係

〒520-8577

滋賀県大津市京町四丁目1番1号

TEL077-528-4678 FAX77-528-4956

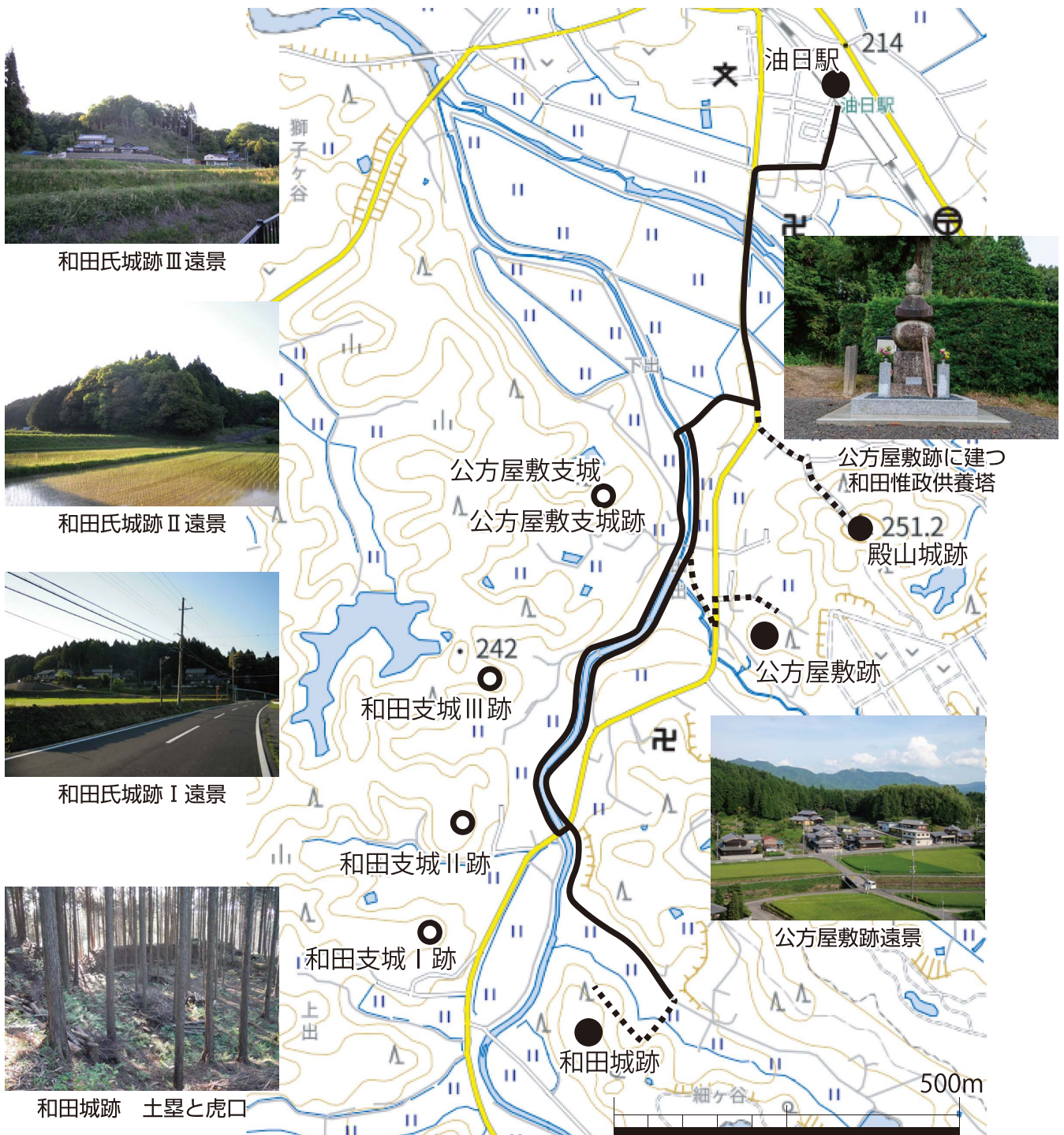
Mail castle@pref.shiga.lg.jp

◆ コース 1 甲賀市指定史跡和田城跡（甲賀市）

和田城が位置する和田谷は、中世にこの地を支配した和田氏が築いた城館跡が密集して存在します。これらの城館は最奥部に位置する和田城を中心に相互に連携することでひとつの城として機能していたと考えられています。

和田氏は、甲賀郡中惣の構成員であり甲賀二十一家にも数えられています。和田惟政は足利義輝、義昭両将軍に仕え、義昭を奈良興福寺から和田の地へと脱出させました。この際に義昭が滞在した居館が公方屋敷跡と伝えられています。惟政は以後、織田信長にも仕え両者の連絡役として上洛に貢献しました。また、本能寺の変後は、徳川家康の伊賀越えの際に惟政の縁者にあたる定教が甲賀郡内の案内を務めたと考えられており、和田の位置する油日の地を通して伊賀へと脱出した可能性も指摘されています。

現在も城館跡には土塁等が残されていますが、私有地となっている場所も多く、立ち入りには所有者の許可を取るようお願いします。



◆ コース2 史跡永原御殿跡（野洲市）

関東に国替えとなった徳川家康は、豊臣秀吉から徳川家の京・大坂滞在中の費用をあてる領地として野洲郡永原を含む「在京賄料」が宛がわれていました。慶長6年（1601年）関ヶ原の戦後処理を終え、江戸に下向する途中家康は永原に宿泊します。上洛時の宿泊が主な目的で造った御殿は、大坂夏の陣・冬の陣においても使われ、寛永11年（1634年）の徳川家光の最後の上洛まで、家康が6回、秀忠が4回、家光が2回宿泊しました。宝永2年（1705年）に建物は焼却され、跡地は永原村の「御殿守」が管理しました。平成29年度から実施している発掘調査では、大工頭中井家に残された建築図面である「指図（さしず）」にある建物跡の遺構が、良好な状態で残っていることが分かりました。さらに江戸時代初めの政治史を語る上で欠かすことのできない遺跡として、令和2年3月に国の史跡指定を受けました。



◆ コース 3 姉川古戦場（長浜市）

姉川合戦は、元亀元年（1570年）6月28日（旧暦）におこった、織田・徳川軍と浅井・朝倉軍の戦いです。同年4月の朝倉攻めで、浅井長政の翻意により手痛い撤退戦を強いられた織田信長は、早くも6月には反撃に転じます。両軍は姉川の北と南に陣を構えて対峙しますが、先に動いた浅井・朝倉軍が、姉川北岸に近い野村と三田村に分かれて布陣したのを見た織田・徳川軍は、龍ヶ鼻から下りて姉川南岸に布陣します。開戦直後は浅井・朝倉軍が優位に立っていましたが、次第に織田・徳川軍が優勢となり、そのまま勝敗は決しました。

当地にはこの戦いに関する遺構や地名、伝承が残っており、三田村氏館跡と龍ヶ鼻陣所跡・龍ヶ鼻砦跡では、残された遺構から当時をしのぶことができます。

